

救護施設 先駆的シエア事業実践動画

「地域におけるセーフティネットの機能強化・推進事業」



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

佐賀県

佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮

副施設長 真崎小百合



【事業に取り組む背景】

- ・ コロナの影響もあり、生活困窮者の急を要する受入要請が増加。
- ・ 就労されている方、家族で利用希望等、様々なケースがある。
- ・ 相談支援事業（独自事業）の受付、対応件数が増加。

【本事業の目標】

- ・ 支援体制の強化（職員の増員）により、迅速かつ柔軟な事業展開。
- ・ 施設環境の整備や支援内容の充実を図り、効率的かつ柔軟な対応。



【課題】

- ・ コロナ対策のため、緊急一時受入は、入所者の生活エリアと分けたい。
- ・ できるだけアパートのような生活環境がいいが、近くに物件がない。

【対応策】

- ・ 施設内のスペースを有効活用し、緊急一時受入のスペースとして整備。
- ・ より居宅生活に近い生活環境を整備するため、シャワーブースを設置。



2-2.専用スペースの整備

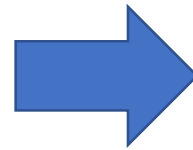
施設内の空きスペースを活用し、緊急一時受入事業を実施



2-3.シャワーブースの整備



改修前（洗面所）



改修後（専用のシャワーブースを設置）



3. 支援体制の強化（人員増）

職員の増員により、急な対応や柔軟な支援が可能

例)

- ・ アパートの片付け
- ・ 公営住宅への引越し
- ・ 急な受入対応
- ・ 急な訪問支援等

※複数職員による対応が可能



関係機関と連携による引越し支援

4. 関係機関への周知

- ・ **生活困窮者の受入について、専用スペースを設け、柔軟な対応ができることを関係機関へ周知。**
- ・ **関係機関から随時相談を受けるようになり、利用実績も増加している。**



- ・一定期間生活の場を提供したり、また、施設が継続してサポートすることで、地域生活が継続できる。
- ・施設だけではやれることが限られており、関係機関との連携が不可欠。
- ・救護施設に対する期待が大きい。



- ・ **施設機能と生活困窮者支援を継続してアピール**
- ・ **地域におけるセーフティネット機能を強化。**

